

★ A HAPPY NEW YEAR! 2019 ★

2019年がいよいよ始まりました。元旦の空は真っ青に澄み渡り 清々しい幕開けでした。皆さんは、どのようなお正月を過ごされましたか？ 保育園にも、心温まる可愛らしい年賀状がたくさん届いており、職員一同、嬉しく読ませて頂きました。改めまして 御礼申し上げます。年末の全体礼拝で「明日からしばらく保育園はお休みです」と言う「えー！どのくらい？」との声。「10回 寝たら・・・ね」「え～！10かいも～!？」と目をまん丸くしていました。「1月7日に、またここでこうして 皆で一緒に礼拝をしようね。それまで元気でいてください。そうそう、その時の 挨拶の言葉は“明けましておめでとうございます”って 言いましょ。」「うん！してるヨ～!」「あたらしいとしになるからでしょ」「おしょうがつだからだよね」などと年長組の子ども達を中心にニコニコの笑顔でお互いに言い合っていた子ども達でしたが、今朝の礼拝では とっても元気で とっても立派に 新年の挨拶を交わし合うことができました。2018年の1年間、神様の御手の中で守られながら 毎日の保育園生活を 小さな心と身体で精一杯 頑張っ歩いてきた子ども達です。大好きなお家の方々と一緒に過ごすことができた昨日までの時間は きっと、それぞれの心の中に 温かな宝物として 刻まれていることでしょう。そして新たな道のスタートの上にも 豊かなエネルギーへと変えられ 注がれることと思います。

年が明けて間もない3日には、熊本県での大きな地震発生のニュースに驚き 心配しましたが、どうか もう 大きな被害や悲しみが起らないよう 守られますようにと 被災地の方々の不安を想いながら 今も切に祈るばかりです。昨年1年を表す漢字一字は『災』でしたが、ここ最近の自然災害は 本当に凄まじく、人にはどうすることもできない 人知をはるかに超えた 絶対的な力の大きさを痛感させられます。今年こそ 平安で 穏やかで 明るい日々が送れますように…と願わずにはられません。今朝 久しぶりに会えた子ども達の瞳は皆、元旦の空のようでした。ちょっぴりすまし顔で お辞儀をし合っていた姿は 何とも言えないほど 微笑ましかったです。こうしてまた“出会えた”幸い、今この時を共に“生かされている”恵みに心から感謝しました。目の前の 愛する子ども達ひとりひとりの あどけない笑顔こそが たった1つの守るべきものであることを 改めて思わされ、保育園として 私自身としての使命を 心に強く刻みつけました。

そして、今年 2019年4月1日、つのぶえ保育園は 60歳の誕生日“還暦”を 迎えます。「石田先生、天国とは このつのぶえのような所だと僕は思うんだ。子どもこそ世の光、宝だよ」生前 設立者の榎崎光先生は 子ども達の姿を優しく見つめながら よく そう言われていました。60年前、成田山のすぐそばに、キリスト教の保育園を開園したことの困難な経緯を聞く度に 神様の御業の不思議さ、奇跡ともいえる今日までの道のりであったことを つくづく思います。20年前 そのバトンを引き継いだ私ですが、榎崎先生の言葉が しみじみと心に沁みて来ます。子ども達の 輝く笑顔や明るく元気な笑い声の絶えない この場所は、まさに天国そのものです。毎日の楽しく心躍る時間も 人としてぶつかりながら試行錯誤する心の葛藤や たくさんの涙もすべて、子ども達が 私達大人に与えてくれている成長の糧であることにも感謝でいっぱいです。保育園の子ども達を よく知り いつも見守って下さっている方が、先日 年始のご挨拶に見えて しみじみと言われた言葉が心に残っています。「つのぶえの子ども達は 祈る存在を知っている。何かの時に 委ねることができる存在が在る。祈ることができるのは 心に強さを持っているということですよ。だからきっと どんな時も神様を信じ人を愛し自分を愛して生きていけます。」

この つのぶえ保育園が、これからもずっと、子ども達にとっての天国で在り続けられるよう 命の根源である神様に 常に心のまなざしを向け、どんな時も 皆で祈りを合わせ 想いを重ねて 新しい2019年を 笑顔で前進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。神様の 平和の光と豊かな祝福が すべての人々の心に注がれますよう 主キリストの愛と共に 心よりお祈り致します。「見よ。子どもたちは 主の賜物。(詩篇 127:3)」 (石田 記)